

黒字（ゴシック）：第 1 回遊佐沿岸域検討部会回答
 青字（ゴシック）：対応の方向性

山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議 第 1 回遊佐沿岸域検討部会における意見と対応の方向性

項目	意見・質問	会議内での回答	対応の方向性	備考
漁業関係	<ul style="list-style-type: none"> 洋上風力発電導入によるサケの遡上への影響等、何かあった時のフォロー体制を事前をお願いしておきたい。(尾形委員) 	⇒ サケの遡上への影響も視点に入れて研究を進めていきたい。(事務局)	<ul style="list-style-type: none"> 漁業協調策・漁業振興策等に関する研究会において、サケ・アユ・サクラマスなど遡河性魚種も含め、漁業対象魚種に関するモニタリング調査の実施方法を検討して、その実施を事業者に求めていく。 漁獲減少等、何かあった時のフォロー体制の整備を事業者に求めていく。 	参考資料 1 「漁業協調策・漁業振興策等に関する研究会について」参照
	<ul style="list-style-type: none"> 漁業協調策の研究・検討について、養殖ならびに漁礁の設置等が提示されているが、地元の漁業者が将来どういう漁業をしたいのか、漁礁を整備するにしても対象魚種はどんな魚で、どのような素材と構造の漁礁がマッチするか慎重に検討する必要がある。(中原委員) 	—	<ul style="list-style-type: none"> 漁業協調策・漁業振興策等に関する研究会において、対象魚種に応じた漁礁（素材・構造含む）の整備のあり方等を検討する。 	
安全面等	<ul style="list-style-type: none"> 洋上風車が建設された際の航行ルール of 徹底をお願いしたい。(五十嵐委員) 	⇒ 基本的には海上衝突予防法に従って、航行をお願いしたい。(海上保安部 畑中委員)	<ul style="list-style-type: none"> 洋上風車の安全対策等に関する国の検討状況を注視していく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> エネ庁と国交省の合同会議において、航行ルールに関して、中央レベルで全国一律のルールを検討し、セーフティゾーンのような形で風車からの一定の距離を数字で示すべきではないかと提言した。(中原委員) 	—		
港湾関係	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ海域利用法における促進区域の指定基準の中に、港湾との一体的な利用という記載があるが、遊佐沖を促進区域とした場合、その区域の港湾というのは、どの港が該当するのか。(西村委員) 	⇒ 港湾については国交省が所管のため、現状で、どの港湾かという具体的な情報を持ち合わせていない。基本的な考え方としては、国交省が持つ港湾に関する情報を基に、建設する際に使う港、維持管理のために使う港を検討していくことが想定される。(資源エネルギー庁)	<ul style="list-style-type: none"> 県として、国や事業者に対し、県内の港湾を利活用するよう、最大限の配慮を求めていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 山形県の沖合であっても、新潟県や秋田県の港が該当し得るのか。遊佐町には吹浦に漁港があるが、そのような漁港でも該当し得るのか。(西村委員) 	⇒ 建設のための港はある程度の規模が必要だが、維持管理のための港に必要な規模は異なると聞いている。県内に限らず、県外の港も該当し得ると聞いている。(資源エネルギー庁)		
各種調査関係	<ul style="list-style-type: none"> 海流調査について、砂浜形成に及ぼす影響も調査することだが、漂砂のシミュレーションを実施するということか。また、前提条件となる風車のレイアウトが独り歩きしないよう留意する必要がある、あくまで仮定的前提条件による調査ということをきちんと表示する必要がある。(中原委員) 	—	<ul style="list-style-type: none"> 今回の調査においては、海流・海浜流を対象として、水の流れのシミュレーションを行った。その結果、砂浜形成に及ぼす影響は殆どないとの結論となったため、漂砂のシミュレーションまでは実施しなかった。 風車レイアウトは、事業者プレゼンテーションの内容を参考とするが、あくまで仮定である旨を脚注等で明示する。 	資料 2-1 「海流等に関する情報収集」参照
	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業・雇用への波及効果について、遊佐町の産業連関分析をやるとなっているが、産業連関表の全国版は平成 26 年度の延長表が最新のものであるため、いつの時点のどのようなデータを使うかについて留意しないとイケない。(中原委員) 	—	<ul style="list-style-type: none"> 全県域及び遊佐町・酒田市いずれも入手できる最新の産業連関表を用いる予定である。 全県域では、山形県公表の「平成 23 年山形県産業連関表」、遊佐町・酒田市では、環境省提供の「平成 25 年延長産業連関表」を用いる。 	参考資料 2 「地域産業・雇用等への波及効果等に関する情報の収集調査計画」参照

項目	意見・質問	会議内での回答	対応の方向性	備考
各種調査関係	<ul style="list-style-type: none"> （遊佐部会1回目）資料3にある「上位の基幹系統を含めた系統増強策が必要」というのは、新規の電源線の工事費を想定するのか、それとも上位系統の変電所の増設まで想定するのか、具体的にどういう意味か。（山家委員） 	<p>⇒ 現状としてはまだ送電線の情報を集めている状況であり、どの程度の変更が必要なのかという点も含めて調べていかないといけない。 東北電力様と相談しながら、情報収集等に努めていく。（事務局）</p> <p>⇒ 資料3（「系統連系の確保に関する情報の収集」の2頁目）については、「東北北部エリアにおける電源接続案件募集プロセスに関する接続検討回答見直しについて」の中で公表されている増強計画の資料である。現在、庄内地区エリアにも関係のある電源募集プロセス案件の情報について提示されたものと認識しており、今後、洋上風力を進めるに当たって、系統に関する調査を建設技術研究所がこれから実施していくと認識している。（東北電力株送配電カンパニー 白鳥委員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後、東北電力様へのヒアリング等により情報収集を行う。 	参考資料3「電力系統の現況について」参照
その他	<ul style="list-style-type: none"> 遊佐町内地区別説明会を第3回遊佐部会前に開催してほしい。町民意見をまとめ、全体会に報告してほしい。（畠中委員） 長崎県五島市視察について、昨年実施済みであり、また、五島市の計画は浮体式洋上風力であることから、遊佐沖と同じ着床式で計画している地域（千葉県銚子）を検討してはどうか。（中原委員） 	<p style="text-align: center;">—</p> <p style="text-align: center;">—</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区別説明会については、町の意向も踏まえて第3回遊佐部会前に開催する方向で調整する。（第3回遊佐部会の開催時期は、当初の10月から11月上旬に変更の予定） 今年度の視察は、遊佐地区に加え酒田地区の漁業者の理解促進を主眼に実施することとし、基本的に昨年度と視察者を入れ替え、部会委員以外の漁業者にも参加していただくこととしている。 五島市の計画は遊佐沖とは違い、浮体式ではあるものの、漁業関係者、自治体、地元の企業などが、地域一体で取組みを進めている国内でも数少ない優良事例であり、洋上風力と漁業や地域との共存・共栄という観点から学ぶべき事項が多いものと思料される。 以上の理由から、視察先は長崎県五島市とすることとする。（視察日程は9月11日～13日を予定） 	